

荒木あけみ

函館市議会議員 荒木あけみニュースレター 第27号/2025年7月/発行責任者 佐々木真実(内部討議資料)

【議場の片隅から..】

市議会の一般質問に立つと、いつも感じるのは「一人で立っているけれど、一人ではない」ということです。今号では、学生ベンチャー支援、図書館 Wi-Fi、脱酸素と再エネのリアル、これからの観光施策など、地域で聞いた言葉や届いた声を元にした質問を掲載しています。ここでは抜粋ですが、議会で取り上げる質問一つ一つには市民の方からうかがった暮らしへの願いや希望がつまっています。そんなやりとりの一端をこのニュースレターでお届けできればと思っています。

四国での調査・視察（宇和島市）

3月議会のあと、愛媛県宇和島市へ視察に行きました。テーマは養殖漁業。愛媛県は、瀬戸内海側では漁船漁業、宇和海では養殖業が盛んです。特に、海面の魚類養殖生産量は日本一、それも46年間連続1位です。魚類養殖は1961年に宇和海各地で始まったハマチ養殖を皮切りに本格化しました。その後、マダイ養殖も始まり、函館にも来ている「鯛一郎くん」はこの宇和島から入っています。宇和島は柑橘でも有数の生産量を誇っており、柑橘を与えるみかん魚(鯛、ブリ、サーモン等)、ウニ(みかんウニ)の養殖も有名です。柑橘×魚の視察は年度末で日程が合わず、今回はシマアジ海面養殖の様子とAI搭載のスマート給餌機について視察してきました。魚類の養殖でキモになるのは「餌」。餌の量を適正に管理できないと市場に出しても赤字になります。シマアジは食欲にムラがあるため、AIを使ったスマート給餌機で、魚の行動からお腹いっぱいかどうかをセンサーでチェックすることで餌の調整を行っています。函館市でもキングサーモンや昆布の完全養殖を目指して研究事業が続いています。養殖の先進地を視察することで、函館らしい養殖事業をチェックするための基本を学ぶことができました。



先に漁業について座学



魚の様子を目視で確認



宇和島港の沖合いにある戸島から養殖場まで移動



AIを使った給餌機を間近で見学



配合飼料のペレットを養殖筏に投入

以下は、一般質問の意図や内容をまとめたものです。詳細は、動画をご覧ください
(Youtubeの「函館市議会」チャンネルでは全議員の質問を動画で見られます)。



〔令和7年3月18日(火)16時10分～17時10分 以下①～③〕

① 若者の定着・活躍を促すための施策

学生と話した時に聞いた、「函館に残りたいが(やりたい)仕事がない」という学生に選択肢を用意できないか、と感じたのが質問のきっかけ。昨年は市内の大学3校で1つずつ学生の創業(起業)があった。学生のスタートアップ、ベンチャー企業を応援することが地元定着の一つの策になる。市は若者の創業を積極的に後押ししたいと答弁。また、17年続いている「キャンパス・コンソーシアム函館」(市内高等教育機関の連携)にはマンネリ化という声もあるので、見直し、再構築する時期ではと提起。市の認識が「危機的な人口減少への対策が最も重要な課題」(令和7年6月議会答弁より)ならば、他市と横並びの施策だけでなく、学生定着・活躍のための函館独自の取り組みが必要と感じる。

高卒の就職率 約2割(就職者数381人/全卒業生数2,018人)、うち市内への就職率 約6割(235人/381人)
高等教育機関*卒の就職率 約7割(780人/1,133人)、うち市内への就職率 約2割(143人/780人) *道外は約6割
※高等教育機関:函館市内8つの大学・短大・高専

② 社会教育施設の利便性向上

中央図書館にWi-Fi(無線でインターネットに接続できるもの)を入れてほしい、という複数からのご要望に基づいて質問。道内では札幌、苫小牧、帯広、釧路、室蘭、北斗市等で図書館にWi-Fiが導入されている。なお函館アリーナは開館当初から、市民会館は昨年よりWi-Fi設備がある。市は図書館での未整備が利便性の点で大きな課題ととらえているので導入を求めたところ、検討を進める必要があるとの答弁(まどろっこしいですが、実施可能性の低い答弁用語の「検討」ではなく、文字通りの「検討」で実際に進めるようです)。また、図書館では飲食禁止だが、体調管理としての水分補給を認める図書館が増加傾向なので市も認めるべきではと質したところ、一定ルール(フタ付の容器はOK等)を定めて指定管理者と調整したいとのことであった。



③ 脱炭素社会と市・企業局が導入・検討・関連している再生可能エネルギー

3年前の2月、函館市はゼロカーボンシティ(2050年迄に二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す)を宣言し、それを受けて荒木は翌月3月議会で「脱炭素社会とエネルギーの課題」を質問した。

脱炭素社会を目指す理由は、①地球温暖化による気候変動を止めるため ②化石燃料が枯渇するため。しかし①には脱炭素利権が絡み、②は25年前に中東で「あと23年で石油は枯渇」と聞いたが今現在も原油生産ができており埋蔵量あり。脱炭素を否定はしないが、脱炭素社会の実現は「目的」ではなく「手段」であり、市として取り組むならば地域の利益を最大化すべきと考える。電力の自給自足、災害時のエネルギー確保、売電による収益、電力コスト削減によって市民の安心・安全な暮らしや市の財政に還元すべきと提案。再エネ導入には、発電量が気象条件に左右されることや蓄電・需給調整の技



術的限界、導入・運用コスト等があり、函館で冬季の電力需要に対応できる現実的なエネルギーミックスの検討が必要。その中で、注目すべきは小水力発電。赤川高区浄水場での発電で2,300万円の年間収益(平均)がある。太陽光、風力に比べて安定的に供給でき、発電効率が他の再エネより高く、自然環境への影響も少ないと言われている「水力」の活用を要望。3年前、電気自動車購入への補助金は正当性がない(電気自動車の電気は殆ど化石燃料由来。マーケティングの観点からも新製品を早く購入したいイノベーターに補助金を出す意図が不明)と述べたが、現在は補助の対象外となったことも確認した。

の補助金は正当性がない(電気自動車の電気は殆ど化石燃料由来。マーケティングの観点からも新製品を早く購入したいイノベーターに補助金を出す意図が不明)と述べたが、現在は補助の対象外となったことも確認した。

〔令和 7 年 6 月 12 日(木)13～14 時 以下①～②〕

① 観光施策(コンテンツツーリズム、観光危機管理、サステナブルツーリズム)

1) コンテンツツーリズム



昨年の名探偵コナン効果として、約103億円の直接的な消費効果があった。市の予算2,000万円(スタンプラリー実施、ラッピング市電・歓迎フラッグ等)に対して、費用対効果が高く、「1円の PR 費用で515円の消費を生んだ」のは極めて効率的な施策だったと評価する。映画やドラマ・アニメ・ゲーム等の作品をきっかけに舞台となった地を訪れるコンテンツツーリズムでは、訪問者が作品に強い愛着を持っているため、地域との深い関わりやリピーター化が期待できる。市が

観光の新しい柱として育てていく意欲が分かり、地域と作る観光コンテンツを目指す姿勢が示されたのは意義深い。但し、作品に依存した集客は一過性のリスクもあるので、持続的な仕組みが求められるため具体案を出した。作品を「待つ」のではなく「攻め」の姿勢で取り組むことを期待する。



2) 観光危機管理

「2025年7月5日に日本で大災害が起きる」という噂により、香港と結ぶ航空便が運休になる等の影響が全国各地で出た。こういった風評や噂が観光に与える影響について、また7月5日に何か起きても、起きなくても危機管理の在り方を考えておく良い機会と思い質問した。市は、正確な情報発信、関係機関との連携、観光関係者との迅速な意思疎通など危機対応体制を強化する必要があると感じている。観光は「人の移動」が前提で、不安定で外的要因の影響を受けやすい産業だからこそ(また新型コロナを経て)危機管理が重要と感じる。函館にとって観光は地域経済の屋台骨であり、リスク顕在化した際は市民生活に大きく影響する。風評リスク、国際情勢の変化、SNSでの誤情報拡散といった現代的な危機に対しての備えを全庁的に課題とすべき。

3) サステナブルツーリズム

観光公害が問題となっている中、環境・文化・経済において「持続可能な観光」を意味するサステナブルツーリズム※は今後重要な視点。公共交通の利用、環境保全・環境負荷の対策等しており、理念も理解されているが、具体的な指標や数値目標、評価の設定が必要。経済でもサステナブル(持続可能)が求められる今、観光関連の入場料・駐車料金の見直しを提起。市長の「宿泊客数1,000万人目標」に対しては、函館観光の人気スポット「夜景」、冬の目玉コンテンツ「光」、これらの活用や改善によって陳腐化させない策を期待(下から見上げる夜景の充実、LED化による光量変化)。次期観光基本計画策定に向けて、持続可能な観光のための国際認証取得の必要性も検討するとのこと。観光振興が地域社会を壊さず、市民・観光客・観光事業者の“三方よし”となるようチェックしていく。

※サステナブルツーリズム:観光全体の在り方に関する包括的な考え方。対して〇〇ツーリズム(例)アニメツーリズム、サイクルツーリズム)は〇〇を目的に観光すること。

② 市長公約と函館市民の幸せを実現する自治体戦略

「函館市民の幸せ」という自治体の最大の目的について、その実現に向けた戦略について質した。市は最も重要な課題を人口減少と捉えて対策本部を設置し対策を進めている。市長が選挙以来多く発信している「インクルージョン」、また市長が全面的に責任持って頑張るとしている「ジェンダーギャップ解消」、これらの取り組み状況と共に、こういった市長の公約やスローガンと市の最上位計画である総合計画の関係を確認した。最後に市長へ二点質問。選挙の時から連呼していた「インクルージョン」への思いと「函館といえば〇〇」といった特徴を考えているか(例 明石市の「子育て」、福岡市の「スタートアップ」のような)について。前者については「街を人間に例えると体と心がある。体は公共施設やインフラ等。体が整っていると一定程度発展できるが、危機がある函館の発展には将来像の設定、つまり体だけでなく心が入っていないとだめ。その「心」がインクルージョン。時代が移り変わってもこの街を選び続けてくれるような未来を目指していないと今の危機を突破できない」。後者については「今は特徴を1つに絞る考えはない。総合的に行くしかない」との答弁であった。

2025 年上半期 活動の一部を



1/5 書き初め
一瞬の集中力
でファースト
テイク(一発勝
負)



2/1 函館市私立幼稚園協会・道南
地区私立幼稚園連合会合同研修会
「未来へつなぐこども・子育て支
援」と題した講演



2/15 後援会主催の新年会



5/11 北海道植樹祭
エゾヤマザクラを
植樹



5/29 「人口減少を克服
する戦略」の研修受講



ひとり親世帯向けの
食料支援は毎月継続中
(函館東こどもサポート
クラブ)

1/26 荒木あけみと語る会 (年初恒例の報告会)



1/26 『こども
かいぎ』映画
上映会



1~2月は新年会
シーズン、その
あとは6月頃ま
で総会シーズン



2/9 市民歌舞伎「初春
巴港賑」でのお手伝い



2/20-21 スマートエネ
ルギー展示会視察@東京ビ
ッグサイト



2/18 “免疫”の勉強会
(事務局をしています)



3/29 道ユニセフ主催
『世界の果ての通学路』
映画上映会で司会



4/25 新ブルームーン(遊覧船)記念運航
船体に障がい者アート



6/8 道高校 PTA 連合会全道大
会の分科会(遺愛)で司会進行

6/22 函館
マラソン
前清掃
(9回目)



6/29 函館マラソン
沿道応援 (私設エ
イドで飲物提供)

市政へのご意見、ニュースレター送付先変更などのご連絡は・・

未来へつなぐ荒木あけみネット (荒木あけみ後援会)

所在地: 〒040-0035 函館市松風町 17-10 FAX: 0138-76-3321

E-mail: info@arakiakemi.jp

Instagram araki.akemi



facebook
未来へつなぐ荒木あけみネット



X (旧 twitter)
荒木あけみ【函館市議会議員】



荒木あけみ公式ホームページ
<https://www.arakiakemi.jp/>

